

郷土碑文巡り (二)

宇山・林地奉納の碑

会員 山 本 保

佐伯市宇山又、天満社登り口の近くに、次のような「林地奉納碑」が建立されています。

〔碑面の文字〕

大正十四年二月、村社(天満社)氏子安藤正人氏母ヨネ、祖母ケソ子両女、林地台帳面、反別三畝十六歩(注約三アル)ヲ氏神ニ奉納センコトヲ思立タレ、一家相語ラヒテ、宇山氏子全部ニ其ノ意ヲ通スベク、特ニ任長田中甚蔵氏ニ申込マレタリ。

於是、氏子一同ハ、兩氏ノ誠意ニ感ジ、俱ニ相議シテ、茲ニ記念ノ一碑ヲ築造スルニ至ル。

先寔、津志河内ノ三股岩太郎氏ハ、杉苗九十余本ヲ献ジ、宇山ノ興田新造氏ハ、自ラ植付ノ勞ヲ捧ゲテ、兩女ノ美琴ニ志ジ、而シテ氏子全部ハ亦、此ルヲ生育シテ、神社修造ノ用ニ供スベキ時至ルアラバ、必ズ右奉納者タル兩女ノ美ヲ感ムルノ儀ヲ篤ク行フベク、之ヲ氏神ニ誓ヘリ。

後人、此碑ニ因リテ、林地ノ由未ヲ覚リ、兩女ニ報ズルノ拳アルベキヲ忘レズモガナト云爾。

昭和六年七月吉日

社掌 足田 泉 撰
石工 白石市太郎

宇山天満社氏子中

大正末期の宇山区、元佐伯市長(昭和二十一年三月より同年三月まで在任)安藤正人氏祖母ケソ子さん、母ヨネさん、津志河内区ノ三股岩太郎氏、宇山又ノ興田新造氏ノがたがたの美琴は区、頭が下ります。

大いに学ぶべきだと思えます。

堅田郷では、宇山又・江頭又・波越又・棚野又・山口又・大越又などの各地に、天満社が設けられています。祭神は、菅原道真公です。学問の神、天神さま。としてまつられています。

前記の六祠の中で、もっとも古いのが宇山天満社で、大永七年(一五二七年)の創祀といわれ、宇山城址の現在地に移ったのは、明治九年(一八七六年)だそうです。

また、「林地奉納碑」のそばには、白蓮庵があります。大正六年十一月、弘法大師(法信)仰々(佐藤一斎氏)選が、佐伯市・南海郡郡の寺庵八十八か所、いわゆる佐伯四国八十八か所を霊跡巡礼の札所としました。が、宇山白蓮庵は、その三十番の札所に指定されていません。

その一番所は、佐伯の養賢寺(禪宗)で、最後の八十八番所は上浦町夏井の地藏庵でした。霊跡札所三十番目の白蓮庵は、現在無住、宇山公民館に变身しています。

有名だった佐伯・南海郡郡四国八十八か所、霊場巡礼の札所の大半は、無住となっていることでしょう。時代の推移をひしひしと感じさせられます。

(注)

弘法大師 空海、讃岐の豪族佐伯氏の一族、漢文学の詩文にすぐれ、殊に書道がたくみで、嵯峨天皇、橘逸勢とと

もに三筆といわれました。日本ではじめてふつうの人たちに
線装禪院という学校を設けて、教育のために尽くす
なれました。更に、多くのかんがい用の池や井戸を掘
ったといわれ、その一つ、龍坂の跡蔵池は有名です。
真言宗の開祖。

佐藤一斎 当時佐伯町唐住、鍼灸師

(以上)

記録

佐伯史談会
発足二十周年 記念集會を催して

(茶会 昭和三十三年三月十六日、龍護寺で)

日時 昭和五十三年三月十九日(日曜)
会場 佐伯市稲垣字龍護寺

羽羽山龍護寺 観音堂

概況

彼岸入り二日目、すばらしくよく晴れた暖かい日で、
申し分ない春日和であった。九時過ぎから会員が続々
つめかけ、受付はさばじめる。

今日の二十周年記念行事は次のように進められた。

① 発足二十周年記念総会(九時半より本堂で)

1. 開会のあいさつ 司会 岩田善市会員

2. 佐伯史談会二十年の足跡(羽柴)

次のページに掲載する史談会の研修やその成果、
過去に甘えることなく、これから先の積及重ね
に励みたいと希望した。

3. 会長あいさつ(高木)

これまで皆さんの協力によって成長してきたと

述べて、さらに温故知新の精進をつづけ、地域
社会に報いたいと決意を表明した。

4. 来賓祝辞

はじめに市長代理浜崎助役から、次に白井史談
会の高橋会長から、過分の祝辞と今後一層の研
さん努力をいと励ましのお言葉をいただいた。

5. 祝辞・祝電の披露があり、総会行事を終った。

② 物故会員慰霊祭

龍護寺住職 森本真道師を導師とし、遺族二十名
を迎え、一般参加者四十名、教員着座、物故会員四十
八名の追悼慰霊の法要をした。本誌27ページを通
り、四十四年以後の十一年の物故者や、みんな思
い出の深い方々、導師の読経をききながら、その
ご冥福を祈った。

焼香は遺族の方でもちろんだが、一般参加者も
全員焼香したので、時刻を要しやや混雑もしたが
それだけに感銘も深く、史談会の盛況とあわせて
故人も喜んで下さったと思う。

③ 記念写真撮影

遺族の方を中心に来賓も会員も全部はいつていた
が、本堂の前で写真をとる。出来上つたら全部の方々に
上げることにしている。

④ 昼食

来賓・賛助会員及び遺族の方々、龍護書院で、会
員は本堂で、簡素な昼食(お蕎麦)をさし上げた。
尚遺族には粗末なからお菓子をもとめて全員に二十周
年の記念品をさし上げた。

⑤ 渡り廊下の資料品展も好企画、会員から好評

⑥ 懇談会 白井史談会の高橋会長、本会平野顧問、長老安部弥
右工門氏の後、懇談がはじまるとつき、祝賀会へと移った。